

酪農学園大学インテリジェント牛舎におけるバイオマスプラント視察

視察メンバー

三津丈夫、木村峰行、北準一、福原賢孝、市橋修治、北口雄幸、笹田浩

日 時

平成23年6月30日 午後1時30分から午後3時30分

視察施設

酪農学園大学インテリジェント牛舎

視察までの経緯

平成23年8月27日から9月3日まで、実施したデンマークでの海外調査においてオーフス大学での家畜の糞尿を利用したバイオマス関連施設から、農業と環境さらには現在我が国の最大の課題である、エネルギー問題との関連もあり、オーフス大学と学術交流協定を締結している酪農学園大学の視察を実施することとした。

視察の内容

三津副議長から視察受け入れの御礼も含めた挨拶の後、学園広報室林多喜夫課長から、学園の概要とインテリジェント牛舎およびバイオマスプラントについて説明があった。

その後施設視察の中で各メンバーからの質疑に対応していただいた。

各施設について



フリーストール牛舎

搾乳牛 60 頭を収容し、全牛個体識別装置を装備し管理している。

牛舎内の監視カメラで運動量を自動計測し、発情発見の目安にしたり、精密試験ストールでは試験牛が何時何分に何 kg の飼料を摂取したか記録します。



ミルクパーラー

健康な搾乳牛の搾乳をするとともに、牛群・個体の生産データの取り込みや電子カルテなどの各種データを管理するし、個体番号を識別し、乳量を記録している。また、乳質に異常のある牛は正常な牛のミルクと混ざらないような対策が取られている。

自動搾乳システム牛舎

自動搾乳システムなどにより、自発的に搾乳ロボットにより搾乳される。



乳牛糞尿循環センター

全牛舎システムから自動排出される糞尿や敷料をバイオガスプラントで嫌気発酵させている。各牛舎で排泄された糞尿は糞尿槽に集められ、地下パイプを通過してバイオガスプラントに送られ、毎日400KWhを超える電気を発電している。このうち130KWhはプラントの運転で消費し、300KWh程度は大学に供給されている。



視察の後、前副知事である、学園の浅田理事長と福山常務理事と意見交換し、本道における収納対策が急務であり、学習・実習・就農のサイクルの確立が求められている、また、農業・エネルギー・環境とも結びつけた取り組みが必要であることを確認し合い、視察を終えた。

